

令和6年9月29日（日）

第13期研修生Aコース 「ゼミナール①」

事前研修「ゼミナール①」は、9月1日（日）に予定されていましたが、台風の影響で9月29日（日）に実施することになりました。

ゼミナール研究では、地球規模の課題等にどのようにアプローチし、その当事者として解決に関わるために、まずは自分の興味・関心のある分野で研究を行います。研修生は留学先でも研究を続け、その研究内容をまとめ、「ゼミナール研究報告書」として提出します。本年度からは、自分のアプローチする課題により主体的に取り組むことができるように、事前研修の中で「問い」と「仮説」を研修生同士で考えることを大切にしています。

事前研修では、少人数のグループに分かれ、研修生はこれまでの指導を通じて、自分が研究しようと考えてきたテーマや仮説について発表し、協議を行います。研修生たちは、協議を通じて、自身の研究を多角的な視点から客観的に捉えることができていました。

研修生たちは、ゼミナール①の研修を通じて、ゼミナール研究を始めるに際し必要となる適切な研究テーマの設定方法や現状と課題の捉え方、情報収集の方法や研究の手順などを学びました。



令和6年9月29日（日）

第13期研修生Aコース及びBコース 「異文化オリエンテーション」

令和6年9月29日（日）に異文化オリエンテーションの研修を実施しました。

第一部では、J O C A（青年海外協力協会）が運営する、多様な文化をよりよく理解するためのワークショップを行いました。多様な文化を理解するために必要なことについて意見交換を行いながら、自分たちの文化を理解してもらうためにどのようなことが必要かを考えました。研修生は、ワークショップを通じて、文化の多様性や交流の重要性を学び、多様な文化への適応力及びお互いを理解するために必要となるコミュニケーション能力について深く考えることができました。

第二部ではJ I C A（国際協力機構）の海外協力隊に参加していた宮重真奈さんを講師として招き、ウガンダで現地の学校の先生と協力し、算数、図工、学校図書の管理など教育改善に取り組んだ内容について



J I C A（国際協力機構）

宮重 真奈さん

での講話を伺いました。講演の中で、研修生は次の問いについて一人一人が考えました。

- ① 今、十分なお金を持っていない状況だと想定してください。水道代、電気代、食費、家賃、学費、携帯電話代のうち、あなたはどれから支払いますか？
- ② 日本では常識と思われる事が、常識ではなかった場合、どのように対応しますか？

研修生たちがそれぞれの考えを発表した後、宮重さんから次のようにお話をいただきました。

「立場や考え方によって答えは変わってくるので、自分の意見が正しいと思うのではなく、なぜ相手はそう思うのか、多角的に物事を見てほしいです。そうすることで、新しいことを学び、相手や相手の文化をより深く理解できるようになります。」

「相手の状況や背景を知ろうとすること、妥協すること、違いを楽しむ心の広さが大切だと思います。自分にとっての常識は、国や場所が変われば常識ではなくなる。そういう経験をたくさんした方がいいと思います。」

質疑応答の時間では、ウガンダでの経験や講師の方の今後の目標等について、研修生が積極的に英語で質問をし、有意義な研修を終えることができました。